

遠野市耕作放棄地再生ほ場実証試験

報 告 書

平成 23 年 3 月 1 日
遠野市農林水産業振興協議会
耕作放棄地解消対策部会

1 実証ほ場地 : 遠野市綾織町上綾織 1 地割内

遠野市の重要な観光資源である南部曲り屋「千葉家」を望む一带にある耕作放棄地は背丈以上に繁茂したススキ等に覆われ、農地の形状が判断できない状態となり、住民からも景観上問題視され、対策を求められていた。

そこで、農地が醸し出している棚田的農村景観を維持しつつ、複数の農地まとめ大型機械の作業効率を想定した農地に再生した。

2 農地再生時期 : H21. 10~H23. 3

3 再生農地 : 2. 73 ヘクタール (うち作付け面積 : 1 ヘクタール)

4 実証試験の内容 :

当市の典型的な中山間地に存在している耕作放棄地を再生し、ソバ作物の試験栽培を行い、耕作放棄地再生地による継続的な営農が可能か実証する。

当地域は一般的に秋ソバを栽培しているが、夏ソバを栽培し比較することで、そばの生産拡大と長期間の安定供給の可能性について調査するもの。




そばの試験栽培については地元ケーブルテレビを活用し P R に努め、実証ほ場として本地区はもとより、市内他地区への耕作放棄地解消の機運醸成を図る。

5 委 託 先 : あやおり夢現会 21

6 栽培結果

- ・ 作 付 品 種 : そば「いわて早生」
- ・ 作付け面積 : 夏ソバ 10 a
秋ソバ 90 a
- ・ 作 付 期 間 : 夏ソバ 播種 6 月 12 日 ~ 収穫 9 月 10 日
- ・ 秋ソバ 播種 8 月 11 日 ~ 収穫 10 月 23 日
- ・ 収 穫 量 : 夏ソバ 皆無
秋ソバ 105 kg (次年度種用 5 kg/10a×10、試作用提供 65 kg道の駅)

・作業毎栽培記録

	夏ソバ	秋ソバ
6月	<p>耕起 6/1-7</p> 	
	<p>播種 6/13</p> 	
7月	<p>生育状況 7/29</p> 	<p>耕起 7/16-8/4</p> 
8月		<p>播種 8/10-11</p> 

8月 生育状況 8/23



生育状況 8/23



9月

播種 9/3



収穫 9/12





9月 脱穀 9/12



生育状況 9/14



10月		<p>生育状況 10/1</p> 
		<p>収穫 10/22-24</p> 
		<p>調製 10/24</p> 

7 検 証

(1) 夏ソバ栽培

- ・ 耕起深は、10～15 cm。初期生育は順調であったが、高温のためか、かなり実入りが悪く、収穫は皆無であった。

【普及センター所見】

- ・ そばの花粉発芽の適温は摂氏 20 度以下で、一般に 28℃以上の高温では雌しべの発育阻害により不稔が発生するといわれている。本年は開花期以降、30℃を越える日が多かったことから、高温による受精障害の発生が多かったと考えられ、この結果、収穫量が皆無となったと考えられる。

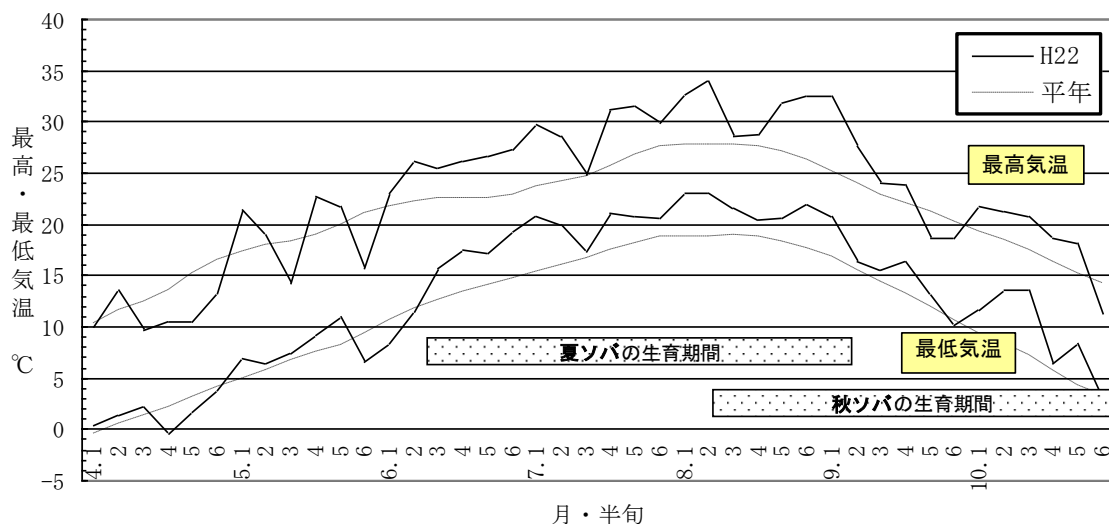


図 1. 最高・最低気温の推移 (アメダス遠野, 4月～10月)

(2) 秋ソバ栽培

- ・ 播種してから、集中豪雨で一部土が流され、また3～4日水たまりが数カ所でき、発芽減、苗倒れが見られた。
- ・ 20年以上耕作していないためか、生育が悪く、高湿のためか、実入りが進まず、背丈も低かった。土壌改良の必要があった。

【普及センター所見】

- ・ ソバの標準的な施肥基準は10aあたり窒素2～4kg, リン酸7～8kg, カリ5～8kgである。本事業では、複数の農地をまとめ大型機械の作業効率を想定して農地再生に取り組んだが、従来畦畔だった部分の土壌改良が不十分であり、特にリン酸の不足が想定された。この結果、秋ソバの生育不良につながったと考えられた。

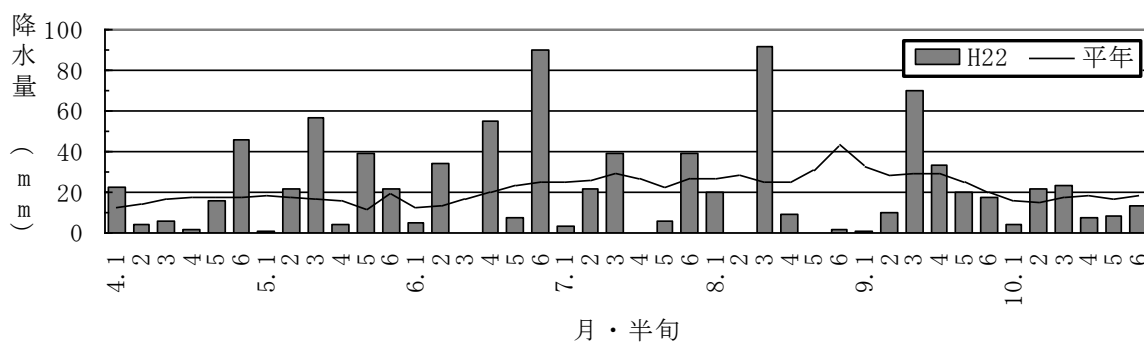


図 2. 降水量の推移 (アメダス遠野, 4月～10月)

8 事業PR

平成 21 年度 ①実証ほ場に事業実施地表示看板を設置

②再生事業の取組み紹介

【遠野TV 22.3.25 放送】

平成 22 年度 ①実証試験栽培事業取組み紹介と耕作放棄地再生支援制度周知

【遠野TV 22.7.14 放送】

※市内他地区の再生事業の取組み紹介

【遠野TV 22.11.24 放送】

9 総括

遠野市の重要な観光資源である南部曲り屋「千葉家」を望む一帯にある耕作放棄地は背丈以上に繁茂したススキ等に覆われ、景観上問題視されていたが、本事業により農村景観を維持しつつ、大型機械での作業を可能にする農地へ再生され、景観の回復と農業再開が実現できた。

今回の実証栽培については、地元ケーブルテレビを活用しPRし、平成 22 年度の耕作放棄地調査において 22 ヘクタールの解消が確認されるなど、実証ほ場として他地区への耕作放棄地解消の機運醸成に成果があったものと思われる。

典型的な中山間地にある再生農地に置いて、ソバ作付けし継続的営農の可能性と、当地域は一般的でない夏ソバも作付けすることで、ソバの長期間の安定供給の可能性について調査したが、夏ソバは初期生育は順調であったが、高温のため実入りが悪く、収穫は皆無であった。そばの花粉発芽時に 30℃を越える日が多かったことから、高温による受精障害の発生が多かったと考えられた。また、秋ソバは 20 年以上耕作していないためか、生育が悪く高湿のため実入りが進まず背丈も低かった。これは、複数の農地をまとめ大型機械の作業効率を想定して農地再生に取り組んだが、従来畦畔だった部分の土壌改良が不十分であり、生育不良につながったと考えられる。

収穫量から比較することはできなかったが、夏ソバの栽培は十分可能性があり、土壌改良等により収量を確保でき、伴って長期間のソバ供給が可能であることを確認できた。当地区にある東北有数の売上げを誇る道の駅「風の丘等と連携し、地元産そば粉によるソバの提供等地域の魅力づくりの向上を図るため、継続して栽培には取り組む。

実施前



実施後

